



「女性研究者支援コンソーシアムあきた賞」の表彰式を行いました

平成29年12月21日(木)14時より秋田大学本部管理棟第一会議室において、「平成29年度女性研究者支援コンソーシアムあきた賞」表彰式を実施しました。この賞は、本コンソーシアムを構成する各機関の女性研究者の優れた成果や取組を顕彰する制度として、平成26年度に創設されました。

選考の結果、今年度は若手研究者学術研究部門2名、若手研究者地域貢献部門1名、ワークライフバランス部門1名の計4名が表彰されました。表彰式では、本コンソーシアム会長の山本秋田大学長から、「この表彰が『女性研究者支援コンソーシアムあきた』参画機関に所属する女性研究者の研究意欲向上と今後の男女共同参画推進に資することを期待する」と挨拶があり、被表彰者一人ひとりに表彰状と副賞が授与され、引き続き受賞記念講演が行われました。受賞者をご紹介します。

【若手研究者学術研究部門】

- ◆ 秋田県立大学生物資源科学部 助教 川上 寛子(かわかみ ひろこ)氏
研究テーマ「薬用植物や地衣類を対象とした組織培養手法による有用物質生産システムの開発」
- ◆ 秋田大学教育文化学部 准教授 羽田 朝子(はねだ あさこ)氏
研究テーマ「満州国の中国文学者の日本経験—女性作家・梅娘を中心に」

【若手研究者地域貢献部門】

- ◆ 秋田県総合食品研究センター 主任研究員 上原 智美(うえはら ともみ)氏
研究テーマ「海外市場に向けた秋田県産ブランド純米・吟醸酒用清酒酵母『AKITA雪国酵母』の開発」

【ワーク・ライフ・バランス部門】

- ◆ 秋田大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師 鏡屋 舞子(あぶみや まいこ)氏
研究テーマ「血液腫瘍に対する経口抗悪性腫瘍薬のPK-PD-PG解析(薬物動態学-薬力学-薬理遺伝学解析)」

＜受賞記念撮影＞

(前列左より)

秋田県立大学 川上寛子氏／

秋田大学 羽田朝子氏／

山本秋田大学長／

秋田県総合食品研究センター

上原智美氏／

秋田大学 鏡屋舞子氏

(後列左より)

近藤秋田大学理事／

小林秋田県立大学長／

赤上秋田県産業技術センター所長／

山名秋田大学学長補佐



常勤男性職員には配偶者の出産時に取得できる有給の特別休暇があります

◆ 配偶者出産付添休暇

夫が妻の出産時の付添や入退院、又は諸手続のため等に取得できる有給の休暇制度です。配偶者が出産するために入院する等の日から、出産の日後2週間を経過する日までの期間内で2日間取得できます。



◆ 育児参加休暇

夫が妻の産前・産後休暇期間中に、出生した子や小学校就学前の子を養育するために取得できる有給の休暇制度です。配偶者の産前・産後休暇期間中に14日間取得できます。



本道地区でコロコニトーキングを開催しました

平成29年12月19日(火)15時より医学部第1会議室において、「平成29年度 第2回コロコニトーキング 休業取得者を支える側のワーク・ライフ・バランス～誰もが働きやすい職場環境を考える～」を開催しました。

近藤理事の開会の挨拶に続き、山名男女共同参画推進室長から、平成28年2月にウェブ上で実施した「秋田大学におけるワーク・ライフ・バランスの改善のためのアンケート調査」の自由記述での意見から話題提供をしていただき、フリートーキングへと進みました。

今回は医師、教員、看護師、事務職員と様々な職種の方が参加してくださり、主に保育園や病児保育について積極的な意見が出されました。様々な要望がある中、ある職種の方にとっては利点の多い制度であっても、別の職種の方にとっては逆に不都合な制度となる場合があることを知る機会となりました。

また、ある部署では、育児短時間勤務者のシフト調整や、所属における役割を工夫するといった取組を試験的に行っていることが紹介されました。

様々な職種の方が、積極的にお話をしてくださり、たくさんの気付きがあり、あっという間に閉会の時刻を迎えました。終了後のアンケートでも「職種の違う方の意見を聞いてよかった。」という意見が多く寄せられました。



北東北国立3大学連携推進会議連携協議会・男女共同参画シンポジウムを開催しました



<開会挨拶をする山本秋田大学長>

平成30年1月17日(水)14時より秋田大学地方創生センター2号館大セミナー室において、北東北国立3大学連携推進会議連携協議会 男女共同参画シンポジウム「これからもずっと輝き続けるためにパートⅡ～多様性を活かす職場環境を考える」を開催しました。

山本文雄秋田大学長からの開会挨拶では「3大学が情報交換等を行い、一つの課題や問題に連携して取り組むことにより、大学間連携をより一層深め、各大学での男女共同参画の推進や、ワーク・ライフ・バランス支援の更なる推進が図られることを期待したい。」との発言がありました。

特別講演では、文部科学省生涯学習政策局の中野理美男女共同参画学習課長が「男女共同参画推進に向けた大学への期待」と題し、学生・教職員・地域の男女共同参画推進における大学の役割について述べられました。

続いての基調講演では、京都大学の稲葉カヨ理事・副学長(男女共同参画・国際・広報担当)が、「男女共同参画推進の現状と課題-京都大学での女性研究者支援を通じて-」と題し「女性を対象とした限定的な取組みでは女性の活躍は進まない。働き方改革、男性の意識改革、女性の意識改革を同時に展開していくことが必要である。」とお話されました。



<特別講演
中野理美男女共同参画学習課長>

シンポジウム後半は、3大学における多様性を活かすための取組みについて各大学より報告があり、秋田大学からは、山名裕子学長補佐が、同大の女性研究者支援や男性看護師支援の取組みなどについて報告しました。

続くパネルディスカッションでは、弘前大学の大河原隆理事、岩手大学の菅原悦子理事、秋田大学近藤克幸理事がパネリストとして、中野男女共同参画学習課長、稲葉京都大学理事がコメンテーターとして登壇しました。「多様性を活かす職場環境を考える」をテーマに、理事の立場から各大学の取組みや課題等について発言した後、活発な意見交換が行われ盛会のうちに終了しました。



<基調講演 稲葉京都大学理事>

終了後のアンケートでは、「データも多く、充実した内容でした」「他大学の状況がよく分かり、今後の取組の参考となった」「制度よりも意識の改革が必要だと改めて思った」などといった意見が寄せられました。



<パネルディスカッションの様子>

